2405No.94

KAMA ちゃんの「廃棄物ひとくちコラム」

知事辞任とリニア工事について思うこと

最終処分場に係る制度変遷や基準の強化については、連載の途中ですが、先月初旬に川勝平太静岡県知事の突然の辞任表明がありました。今回はこれに関連して、改めてＪＲ東海リニア新幹線南アルプストンネル工事について書いてみたいと思います。

川勝知事は、４月１日の新入職員への訓示で職業差別的な発言をしたことがきっかけとなって翌日に、急遽辞任表明をするに至りました。３日には記者会見をして正式に辞任を発表しましたが、その会見の中で、「最大の辞任理由は、リニア開業時期が２０２７年以降に変更になったことで静岡県の要求が実現し、一区切り付いたことだ。」と話しました。併せて、新聞記事によれば、「リニア工事は中止も視野に再検討すべき。」との持論を、この日にもしていたとのことでした。

これらの発言に私は、愕然としました。知事の目的は、トンネル工事による環境影響の最小化ではなく、自らの主張をＪＲ東海に認めさせることであったのかと。これまで何かにつけ、県外住民からリニア工事の邪魔をする静岡県という目で見られてきたことに対し、私は一度壊したら元に戻せない貴重な自然や大切な水資源を守るためには、必要なことだと思い、一定の理解はしてきました。

そうした中で、昨年末に、工事に伴う湧出水については、田代ダム取水抑制案で合意し、最大の課題を超えたと認識（本年１月号コラム参照）していましたが、工事着工に合意せず、引き延ばし作戦を継続してきました。この状況での今回の発言は、自らの主張を相手に認めさせた勝利宣言としか映らず、静岡県の名を貶める恥ずべき発言であったと私は思いました。

環境問題は完全に解決したわけではなく、残土処理の問題と、高標高地帯の植生への影響が残されています。後者については、国の委員会もお墨付きを出していますので、国も関与する中で、確実なモニタリング調査の実施により、それを確認していくことで合意ということでしょう。過去を振り返ってみても、黒部ダム建設に伴う関電トンネル工事で「大破砕帯」からの大量出水がありましたが、工事完成後に後立山連峰の植生に大きな影響が生じたことがなか

ったことは、大きな参考になるでしょう。

　また、残土処理の問題については、現在の土木技術をもってすれば、必ず解決できると考えるところで、土木の専門家である静岡市の難波市長も認めています。

　新知事誕生を待つまでもなく、川勝知事の置き土産として、工事着工合意の表明はできないのでしょうか。これまでの経過から無理だとは思いつつ・・・